



2024-25年度 RI会長
ステファニー A. アーチック



No.3565 9月17日(火)

● 本日の卓話

「夜間お月見例会」

18:30～



● 次週の卓話

- ①信用調査会社が行う企業信用調査と格付(評定)について
- ②和歌山県・2024年度の倒産状況と今後の動向について

株式会社東京商工リサーチ 和歌山支店
支店長 乾 健太 さん

● 先週の例会記録

- ✳ロータリーソング 和歌山ロータリー
- ✳ビジター紹介 なし
- ✳出席報告 (会員数80名、免除会員1名)
本日出席(9/10) 53名 67.09%
- ✳メイキャップ 大阪上方へ1名、和北へ1名
- ✳S. A. A. (ニコニコ箱) 櫻畑直尚さん、松井良樹さん、野井和重さん、中野智一さん、河村秀樹さん、瀬川良浩さん、野志幸生さん、紀 俊崇さん、西岡千博さん、海瀬隆太郎さん、池内茂雄さん、山本雄太さん、東口で語る会一同

本日合計 ￥53,000
今年度累計額 ￥479,000

- (財団寄付献金箱) 櫻畑直尚さん、松井良樹さん
- (米山奨学会献金箱) 櫻畑直尚さん、松井良樹さん
- (青少年育成奨励金) 櫻畑直尚さん、松井良樹さん

9月 基本的教育と識字率向上月間 (ロータリーの友月間)



誕生日お祝い

新会員を推薦しよう

ロータリーに友達または
同僚を1人紹介しよう



● 会長あいさつ

会長 野井 和重



先週テレビ東京の番組で和歌山城のお堀の水を抜く！という撮影がありました。現場では先々週からポンプや排水用のホース、土嚢が設置されていました。撮影時の5日には全部抜くまではいかないものの、おおかた底が見える状態まで来ていました。

お堀の面積はゼンリン地図の簡易測量で約36,300㎡(10100坪)ですので、だいたい1.5mから2m水深が下がっていたように見えましたので、平均1.5mとして、55,000㎡の水がどこかへ排水されたこととなります。10t給水車で、5,500台分となります。

さてさて何処へきえたのか？ という話なのですが、和歌山城のお堀は市堀川と地下でつながっています。江戸時代の和歌山城のお堀は東側は裁判所の南側から北に登り、かに道楽のあたりまで掘られていましたが、明治末期以降

そこを埋めたわけですが、その地中にお堀と市堀川を結ぶ通水管を敷設していました。今回はその通水路を使用してお堀の水を市堀川に排水したわけです。また皆様には内川の歴史について次週少しお話をさせていただきますが、和歌山の内川はもともと汽水であり、お堀の水は海水が混ざっていて、鯉もカメも汽水に慣れ元気に泳いでいます。その通水路は紀伊水道とも繋がっていますから、内川ではボラが飛び、エイの生息も確認されています。お堀でもボラが観光遊覧船に飛び込んできたこともございます。撮影が終わりお堀に水を戻しているのですが、西の丸の井戸水をお堀に注入しているのと、潮の満ち引きを利用し自然に戻しているように思います。ヘドロ臭いのもうしばらく。まもなく以前のお堀にもどります。

会 長 報 告

- 10/12 市堀川スタディクルーズについて
- 10/20 まちなかおもてなし大清掃について

幹 事 報 告

- 次回9/17は夜間お月見例会 (18時30分より)
- 11/23・24開催の「和歌山・紀中サイクリングの旅」のご案内 (再掲)

新会員紹介 New Face



いわもととよあき
岩元豊明 会員

生年月日 昭和51年6月2日
 職業・役職 西日本電信電話株式会社
 和歌山支店 支店長
 同上所在地 和歌山市一番丁5番地
 TEL 073-421-9200

職業分類 通信
 趣味 サッカー、フットサル、スポーツ観戦
 推薦者 河村秀樹・野井和重

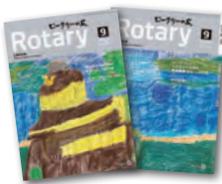
委 員 会 報 告



雑誌・広報委員会

秦 崇 委員長

ロータリーの友2024
 年9月号の主要な記事
 のご紹介。



市堀川スタディクルーズ(船上視察)のご案内

日 時 2024年10月12日(土) 午後から
 天候等により13日(日)へ順延となります。
 出 船 1回の乗船で4艘
 (20名から25名が乗船できます)
 航行時間 約40分予定 (出発は1時間毎)
 締め切り 定員になり次第

まちなかおもてなし大清掃のご案内

社会奉仕・青少年奉仕部門担当理事 河村秀樹
 環境保全・社会奉仕委員長 林 俊行

テ ー マ まちなかおもてなし大清掃
 日 時 2024年10月20日(日)
 午前8:30~(10:00終了予定)
 場 所 本町公園~市堀川周辺エリア
 集合時間 午前8:20 本町公園芝生エリア集合
 締め切り 10月8日(火)

卓 話

いま 「現在から未来への、熊野の役割」



熊野本宮大社 宮司
 和歌山県神社庁長

九鬼家隆 さん

熊野本宮大社は古来より神仏習合の社として、主祭神の素戔嗚尊(家津御子大神)を、本地仏は阿弥陀如来をお祀りし、中世には「蟻の熊野詣」といわれる程多くの人々が熊野に集いました。極楽浄土の地とも称される熊野にお参りし、そして帰ることは死と再生を意味します。このことから熊野は「蘇りの聖地」として、今なお多くの人の信仰を集めています。

熊野三山の本地仏のおはたらきは、熊野速玉大社は薬師如来により前世の救済を、熊野那智大社は千手観音により現世の利益を、そして熊野本宮大社は阿弥陀如来により来世の加護をいただくと伝わり、この神と仏の一体感こそが熊野信仰の神髄であり日本のみならず世界の人々を魅了する所以です。

本年7月7日には、「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産登録20周年の佳節となりました。神話の時代から神々が鎮まる特別な地域と考えられていた紀伊山地は起源や内容を異にする「熊野三山」、「高野山」、「吉野・大峯」の三つの霊場とそこに至る「参詣道」が生まれ、日本の宗教や文化の発展と交流に大きな影響を及ぼしました。この登録により、人類共有のかけがえない財産として「国際的」に保護・保全されることとなったのです。

ここで注目すべきは、この「紀伊山地の霊場と参詣道」は連綿と我々の生活の中に息づいているということです。今この時も、この地に人々の営みがあり、信仰が紡がれ、雄大な自然が存在しているのです。今を生きる我々が、そして次代を担う若者が共にこの貴重な資産を守り、育み、後世に伝えてゆくことにより一層世界遺産としての輝きを世界に発信し続けることができるでしょう。熊野三山もその大きな役割を果たしてまいりたいと存じます。



卓話ゲスト・九鬼家隆さんと野井会長